

令和5年度

評価・評定の資料

～各教科のシラバス・年間指導計画～

2年

中央区立銀座中学校

2 年 ・ 目 次

| | | |
|----------------|-------|-------|
| 教育活動と 評価・評定 | | 1 ~ 4 |
|----------------|-------|-------|

各教科のシラバス・年間指導計画

| | | |
|------|-------|---------|
| 国 語 | | 5 ~ 6 |
| 社 会 | | 7 ~ 9 |
| 数 学 | | 10 ~ 12 |
| 理 科 | | 13 ~ 15 |
| 英 語 | | 16 ~ 20 |
| 音 楽 | | 21 ~ 22 |
| 美 術 | | 23 ~ 24 |
| 保健体育 | | 25 ~ 26 |
| 技 術 | | 27 ~ 29 |
| 家 庭 | | 30 ~ 31 |

1 令和5年度銀座中学校の教育活動について

中学校では、大きく分けて以下の4つの活動を通して様々なことを学んでいきます。中学校の授業は1時間(1校時)が50分で、週5日週29時間の授業があります。1年間で29時間×35週分=1015時間の授業となっています。本校では授業確保のため、各学年の総合学習は原則として週に1時間(年間35時間)とし、それ以外はまとめどりを行います。

(1) 教科

中学校では、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語(英語)の9教科を学習します。各教科にはそれぞれの教科目標があり、現在の学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を重視しています。

(2) 特別の教科「道徳」

豊かな心を持ち、人間としての生き方を自覚し、未来を拓く主体性のある人間となるためには、その基盤としての道徳性を育てていくことが必要です。主に週1時間の道徳の時間に学びますが、一人一人が自分を見つめ、自分の感じたことをもとに自分の意見や考えを深めていくことが大切です。

(3) 特別活動

学級活動、生徒会活動、学校行事という3つの活動の場で学びます。集団活動を通して互いに切磋琢磨し、個性を伸ばし、社会の一員としての自覚を持ち、自主的・実践的な態度を身に付け、社会の中で自己を生かしていける力を養うことを目指しています。

(4) 総合的な学習の時間

この時間で大切なのは、一人一人がそれぞれの課題を持ち、教科や道徳、特別活動を通して身に付けた力を総合的に働かせること、この総合的な学習の時間で身に付いた力を各教科や道徳、特別活動の時間で生かしていくことです。この時間のねらいは次の2つです。

- ①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育てる。
- ②学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

| 区分 | 必修教科の授業時数 | | | | | | | | | 道徳の授業時数 | 特別活動の授業時数 | 総合的な学習の授業時数 | 総授業時数 |
|------|-----------|-----|-----|-----|----|----|------|-------|-----|---------|-----------|-------------|-------|
| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 音楽 | 美術 | 保健体育 | 技術・家庭 | 外国語 | | | | |
| 第1学年 | 140 | 105 | 140 | 105 | 45 | 45 | 105 | 70 | 140 | 35 | 35 | 50 | 1015 |
| 第2学年 | 140 | 105 | 105 | 140 | 35 | 35 | 105 | 70 | 140 | 35 | 35 | 70 | 1015 |
| 第3学年 | 105 | 140 | 140 | 140 | 35 | 35 | 105 | 35 | 140 | 35 | 35 | 70 | 1015 |

2 通知表について

(1) 評価をする期間と通知表配布日

① 1、2年生

学期ごとに評価をしていますが、**3学期に記載される評価は通年の評価**となります

| | 評価をする期間 | 通知表配布日 |
|-----|-----------------------|----------------|
| 1学期 | 4月から7月の学習の評価 | 1学期終業式（7月20日） |
| 2学期 | 9月から12月の学習の評価 | 2学期終業式（12月25日） |
| 3学期 | 1学期から3学期の通年の評価 | 3学期修了式（3月25日） |

② 3年生

学期ごとに評価をしていますが、**3年生の4月から12月の学習の観点の評定が2学期の評価**となります。これが進路の資料となります。**3学期に記載される評価は通年の評価**となります

| | 評価をする期間 | 通知表配布日 |
|-----|-----------------------|----------------|
| 1学期 | 4月から7月の学習の評価 | 1学期終業式（7月20日） |
| 2学期 | 4月から12月の学習の評価 | 2学期終業式（12月25日） |
| 3学期 | 1学期から3学期の通年の評価 | 3学期卒業式（3月19日） |

(2) 評価・評定の出し方

① 評価の観点について

全ての教科以下の3つの観点で評価しています。観点によって重み付けはありません。

| | | |
|--------|----------|---------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ① 100% | ② 100% | ③ 100% |

② 学習状況の評価(観点別評価)について

評価とは、各教科の観点別の成績のことです。各教科とも3つの観点で、それぞれ基準が決められており、その中での達成率でA、B、Cの評価が決まります。本校では、次のように定めています。

| | |
|---------------------|----------------|
| A：十分満足できると判断されるもの | 達成率が80%以上 |
| B：おおむね満足できると判断されるもの | 達成率が50%以上80%未満 |
| C：努力を要すると判断されるもの | 達成率が50%未満 |

③評定について

評定とは、各教科の5段階の成績のことです。教科の各観点の達成率を総合したもので、観点別学習状況の評価を総括し、評定が決まります。本校の評定は、次のように定めています。

| | |
|---------------------|----------------|
| 5：特に高い程度のもの | 達成率が90%以上 |
| 4：十分満足できると判断されるもの | 達成率が80%以上90%未満 |
| 3：おおむね満足できると判断されるもの | 達成率が50%以上80%未満 |
| 2：努力を要すると判断されるもの | 達成率が20%以上50%未満 |
| 1：一層努力を要すると判断されるもの | 達成率が20%未満 |

④観点別評価と評定の関係

| 観点1 | 観点2 | 観点3 | 評定の可能性 |
|-----|-----|-----|--------|
| 評価 | 評価 | 評価 | |
| A | A | A | 5 4 |
| A | A | B | 5 4 3 |
| A | B | B | 4 3 |
| B | B | B | 3 |
| A | B | C | 3 2 |
| B | B | C | 3 2 |
| A | C | C | 3 2 |
| B | C | C | 3 2 1 |
| C | C | C | 2 1 |

⑤ その他

◇総合的な学習の時間の記録

学習活動の内容、成果を文章で記入します。

◇特別の教科「道徳」の評価

授業における取組、変容を文章で記入します。

◇特別活動の記録

生徒会活動（生徒会・専門委員会）、学級活動（学級内の係等）、部活動、学校行事その他（行事の実行委員等の名称や、表彰された実績等）をそれぞれ記入します。

◇出欠席の記録

4月6日から3月25日までの出欠席の状況を記入します。

◇担任より

担任による総合所見を文章で記入します。

⑥ 評価・評定の材料について

各教科の評価は、定期考査だけで行っているわけではありません。日頃の授業での学習活動、宿題などの提出物等で、一人一人の取組を評価します。また実技教科では、実技テストや作品も重要な評価材料になります。各教科のシラバスを見て確認しましょう。

以下の「**学力向上の秘訣**」を参考にして 令和5年度の学習が充実したものになるように頑張りましょう。

学力向上の秘訣＝基本的生活習慣の定着が土台です

- [1] 落ち着いて話を聴く姿勢を大切にしましょう(合わせて読むことも情報を得る手段です)。
- [2] 提出物の期限を守り、必ず出すようにしましょう(宿題も含め、日頃の頑張りの評価です)。
- [3] 時間を守り、家庭で学習する時間を決めましょう(メリハリつけて有効に使いましょう)。

| | | | |
|----|----|----|----|
| 教科 | 国語 | 学年 | 2年 |
|----|----|----|----|

【教科の目標】

国語の諸活動として、長い文章の読解力、コミュニケーションやプレゼンテーション能力などについて理解し、その能力の獲得や定着を図っていく。また、古典や言語知識・文法の学習を重視し、日本の伝統文化や日本語に興味、関心を持って取り組める姿勢の育成を目指していく。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

- ・国語2 (光村図書) 新・国語の便覧 (正進社3年間)
- ・よくわかる国語の学習2年 (明治図書) 10問漢字ノート (浜島書店) 国語の積み上げ2 (明治図書)
- ・すらすら基本文法・各教室、4階国語教室
- ・一斉授業
- ・2学期末～3学期初めにかけて、12時間程度の書写活動(硬筆を含む)を行う。

【評価の観点と方法】

| | 評価規準 | 評価方法 |
|--------------------|--|---|
| 知識・技能 | 音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する基礎的な事項・文学史・古典・漢文や、国語の特質について理解し、知識を身に付けている。楷書の書き方と行書の基礎的な書き方を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気をつけて書く。 | 授業意欲(既習事項・既習学習事項以外の発言を含む) 文章構築・課題作文・漢字 定期考査 |
| 思考・判断・表現 | 多様な方法で材料を集め、自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、読みやすくわかりやすい文章を書く。様々な種類の文章を読み、文章の構成や展開をとらえて内容を的確に理解し、知識や体験と関連付けて自分の考えを持ち、発表する。 | 定期考査 作文・小論文 マッピング プレゼンテーション 文章構築 教室ディベート 文法・古文・漢文の応用 表現活動の内容 |
| (粘り強く)主体的に学びに向かう態度 | 国語に対する関心を持ち、進んで話し合ったり書いたり、読書に親しむ態度を養う。プレゼンテーションに向けて、多様な方法で材料を集め、自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、読みやすくわかりやすい文章を書く。また暗誦テストや長文読解に向けて意欲的に取り組む | 授業態度(発言を含む) 提出物の内容・漢字ノート 暗誦テスト・音読テスト 調べ学習(タブレット使用) 振り返りシート |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、考え、話したり書いたりすること。
- 発言や発表に進んで参加すること。
- 授業の中で行う漢字小テストや文法テストなどの小テストもしっかり取り組むこと。
- 提出物は期限を守って提出すること。
- 定期考査の前には、教科書を繰り返し読むことを基本として、自分のノートを照らし合わせ、授業の流れを確認する学習を行う。ワーク等、問題集を繰り返し学習する。

【家庭学習の進め方】

- ①一番大切なことは、学校の授業です。特に、心情把握は、根拠に基づいたものになるので、授業中での解説などの話をまとめてメモするなどの工夫を授業で行っておくことが大切です。また2年生では長文読解に慣れていきます。
- ②予習は、教科書を読んでおくことが大切です。2回ぐらい読めるとよいです。復習は授業内容の確認です。ノートを見ながら、どのようにして読解が進められたかを確認しましょう。
- ③漢字ノートは家庭学習の基礎です。毎日取り組みましょう。特に成績上は、決められた量だけをやるのではなく、意味調べをしたり、部首を書いたり、例文を書いたりなど、工夫のあるものにプラス点を挙げます。自分流の漢字ノートを作成しましょう。
- ④課題図書は、極力読みましょう。また、朝日新聞の天声人語などに目を通すこともお勧めです。国語が苦手な人はまずはコラムを読むことからはじめ、それが定着したら、そのコラムに対して、自分の考えをまとめ、短作文を書く練習をすると力が付きます。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑦知識技能×問題発見・解決力

- A 「クマゼミ増加の原因を探る」クマゼミについての情報を共有し、「研究」とは何かを考える。
- B 「魅力的な提案をしよう」相手の理解を得るために相手は何を知りたいのかを考え、提案する。
- C 「表現を工夫して書こう」ディベートを通して相手の意見や考えを引き出す。

| | 時間 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|----|-----|---|---|---|
| 4 | 5 | 《1》広がる学びへ | 作者の物の見方や感じ方をとらえる。 声に出して読む 情景描写に着目する 対義語・類義語・多義語 熟語の構成 暗誦・口語訳 | 作者の物の見方や感じ方をとらえ、声に出して読む 登場人物の気持ちを読み取る |
| | 4 | 「見えないだけ」 「アイスプラネット」 言葉① 漢字① | | |
| 5 | 6 | 「季節のしおり」 | 事実と、考察の関係 論理の展開 | 声に出して読み、言葉の響きや調子を楽しむ。 熟語の構成を捉える |
| | 4 | 「枕草子」 | | |
| | 5 | 《2》多様な視点から 「クマゼミ増加の原因を探る」 「魅力的な提案をしよう」 「メディアを比べよう」 | | |
| 6 | 2 | 「メディアを比べよう」 文法への扉① | 単語の分け方 | 単語の理解 |
| | 3 | 《3》言葉と向き合う | | |
| | 3 | 「短歌に親しむ」 | | |
| | 2 | 「短歌を味わう」 | | |
| 7 | 3 | 「言葉の力」 | 短歌の表現 | 短歌の表現の美しさを味わう。 |
| | 3 | ◎書く 「読書を親しむ」 | | |
| 7 | 1 | 「翻訳作品を読み比べよう」 「季節のしおり」夏 | 読書案内を作る | 読書紹介をする。 文章の構成や展開、表現について自分の考をまとめる |
| 9 | 1 2 | ◎弁論作文 | 目的に応じて聞く プレゼンテーション | 目的や状況に応じて、情報を選び、大事な点を落とさず書く。 話の構成を工夫して効果的に伝える。 |
| | 5 | 『説明のしかたを工夫する』 『根拠を明確にして意見を書こう』 | | |
| 10 | 4 | 《4》関わりの中で | 情景・心情描写をとらえる 文章構成・展開 | 意見を明確に伝えるための根拠を示す。 描かれている優しさや温かさを読み味わう。 |
| | 4 | 「盆土産」 「字のないはがき」 | | |
| 11 | 2 | 《5》「モアイは語る」 「気持ちを込めて書こう」 | 敬語表現 同訓同音異義語 | 声に出して読み、言葉の響きや調子を楽しむ。 文語分の表現になれ特徴をつかんで味わう。心情を読み取る |
| | 3 | 言葉② 漢字② | | |
| 12 | 3 | 《6》いにしへの心を訪ねる | 文語文の響きや調子 文語文の表現 心情把握 漢詩の調子 読書を楽しむ 様々な考え方に触れる | 漢詩に触れ、昔の人の心情をとらえる。 他者の考えに触れ、自分の考えを深める |
| | 3 | 「音読を楽しもう 平家物語」 | | |
| | 2 | 「扇の的」5月スタート予定 | | |
| | 1 0 | 「仁和寺にある法師」 「漢詩の風景」 | | |
| 4 | 1 2 | 《8》「走れメロス」 「表現を工夫して書こう」教室 | 人物像の変化 テーマを探る・ディベート | 字形を整えてかく。 |
| | 4 | ディベート 文法への扉③ ◎読書生活を豊かに 「世界で一番の贈り物」 ◎書き初め・硬筆 | | |
| 1 | 5 | 《7》論理を捉えて 「君は「最後の晩餐」を知っているか」 | 事実と根拠 構成 パネルディスカッション 詩の表現技法 用言の活用 | 事実や根拠を確かめながら筆者の意見を読み取る 根拠を明らかにして、意見をまとめ、相手に考えを的確に伝える |
| | 5 | 「研究の現場によろこそ」 | | |
| 2 | 1 | 「日本に野生のゾウやサイがいた頃」 | ノンフィクション作品にふれる | 知識や体験と関連づけて自分の考えをもたせる |
| | 2 | 文法への扉 | | |
| 3 | 7 | ◎読書に親しむ 「蜘蛛の糸でバイオリン」 | 付属語 方言と共通語 送り仮名 言葉と人の関わり 詩の表現 言葉への感性を磨く 和歌の学習 | 人物の考え方や生き方について、自分の考えをもつ 言葉と人間のかかわりを考える。 付属語について理解する 科学について考えを深める 抽象的な表現や比喩について捉え、作者の思いを捉える。 和歌の表現を味わう。 |
| | 5 | 季節のしおり冬 詩「木」 | | |
| | 2 | 百人一首 | | |
| 3 | 2 | 思考の地図 応用編 古典の世界を広げる 敦盛の最後 | | |

| | | | |
|----|-----|----|----|
| 教科 | 社会科 | 学年 | 2年 |
|----|-----|----|----|

(令和5年度)

【教科の目標】

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇地理教科書（東京書籍）、地図帳（帝国書院）、基礎・基本徹底ワーク（東京書籍）
中学白地図日本（浜島書店）
- ◇歴史教科書（東京書籍）、資料集（浜島書店）、基礎・基本徹底ワーク（東京書籍）
- ◇共通：中央区社会科副読本「伝統と文化の街」地理教科書（東京書籍）、資料集（浜島書店）
- ◇各教室・社会科教室 ◇年間 105 時間を、おおむね 60 時間を地理、45 時間を歴史に分ける。
- ◇渡辺・名取で地理・歴史を交互に少人数授業を主体として行う。

【評価の観点と資料】

| 観 点 | 評 価 規 準 | 評 価 資 料 |
|-------------|---|--|
| 知識・技能 | 社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。社会的事象の意義や特色、相互の関係を理解し、その知識を身につけている。 | ◇定期考査 ◇小テスト |
| 社会的思考・判断・表現 | 社会的事象から問題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断している。また考察・判断した過程や結果を適切に表現している。 | ◇定期考査(主に論述問題) ◇宿題 ◇レポート |
| 関心・意欲・態度 | 社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追求し、より良い社会を考え、自覚を持って責任を果たそうとしている。 | ◇定期考査(主にニュース) ◇授業への取組(発言等) ◇宿題・ノート等提出物 |

【授業の進め方と学習のポイント】

- ① 日頃から忘れ物をせず、宿題などの提出物は、必ず提出期限を守る。
- ② 授業は受け身でなく、問いかけに反応したり、発言するなど積極的に参加する。
- ③ 単元の問いや、それを追究するためのテーマを意識し、調べ、スライドにまとめることができるようにする。そして、調べたりまとめたりする学習から、単元の問いに対して様々な視点や角度から考えて自分の意見を表現できるようにする。

【家庭学習のポイント】

- ① 日頃から新聞やテレビ番組などでニュースに親しむ。特に地理ではニュースで出た地名を地図帳で調べる習慣を付けると良い。
- ② 宿題で出されたワークなどで学習した問題は、答え合わせをしっかりと行い、特に間違えた箇所をはっきりさせる。（できなかった、間違えた部分は消さずに赤で直す）
- ③ テスト前は、ワークで学習したことや小テストの問題を繰り返し解く。そして、ノートやプリントを見返し、教科書等で確認する。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

マトリックス③ 言語能力×学びに向かう力

学習の目標について理解し、計画、見通しをたてたり、学習したことを振り返ったりする力

- A 第3章 5節 関東地方において、自分たちが追究してきた過程を振り返り、次の単元に学習したことを活かそうとする。
- B 第4章 近世の日本において、自分たちが追究してきた過程を振り返り、次の単元に学習したことを活かそうとする。

【年間指導計画（地理的分野：年間65時間）】

| 月 | 時間 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|-----|------|--|--|---|
| 4月 | 3時間 | 1編 世界のさまざまな地域 3節 アフリカ州 | 特定の生産品にたよる生活からの変化 | 「特定の生産品にたよる生活からの変化」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究する。 |
| 5月 | 9時間 | 2編 日本のさまざまな地域 2章 世界から見た日本の姿 1節 世界から見た日本の自然環境 2節 世界から見た日本の人口 | 世界の地形 日本の山地と海岸・川と平野 日本の気候・自然災害と防災 世界の人口分布と変化 日本の人口と過疎・過密問題 | 日本の国土の位置及び領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観する。 世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴を「自然環境」「人口」の観点からとらえる活動を通して、日本の国土の特色を大観する。 |
| 6月 | 12時間 | 2編 3節 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 4節 世界と日本の結びつき | 資源とエネルギー 農林水産業・工業・商業・サービス業 グローバル化 交通・通信 | 世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴を「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」の四つの観点からとらえる活動を通して、日本の国土の特色を大観する。 |
| 7月 | 5時間 | 3章 日本の諸地域 1節 九州地方 | 環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし | 環境問題や環境保全を産業や地域開発の動向、人々の生活などに関連付けて考察する。 |
| 8月 | 6時間 | 2節 中国・四国地方 | 都市と農村の変化と人々の暮らし | 都市と農村の変化を人々の生活や産業などに関連付けて考察する。 |
| 9月 | 6時間 | 3節 近畿地方 | 歴史の中で形作られてきた人々の暮らし | 産業や文化の歴史的背景や開発の歴史に着目して、それを他地域との結びつきなどに関連付けて考察する。 |
| 10月 | 6時間 | 4節 中部地方 | 活発な産業を支える人々の暮らし | 東海、中央高地、北陸の各地域の違いを、各地域の自然的条件と社会的条件の両面から考察してとらえる。 |
| 11月 | 5時間 | 5節 関東地方 <u>学習基盤A</u> | さまざまな地域と結び付く人々の暮らし | 東京に日本を動かす中枢機能が集中していることに着目して、日本各地や世界との結びつきを捉える |
| 12月 | 5時間 | 6節 東北地方 | 伝統的な生活・文化や災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし | 伝統的な生活・文化や災害からの教訓を通して、その自然環境や歴史的背景、他地域との交流などから多面的に考察する。 |
| 1月 | 5時間 | 7節 北海道地方 8節 日本をながめて | 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし | 自然環境の特色と関連付けてとらえる。これまで学習した内容を基に広い視野から日本全体の地域的特色に気付く。 |
| 2月 | 3時間 | 4章 地域の課題 | 課題の把握・調査追究・まとめと発表 | 中央区の課題を見だし、課題について調査・追究を行い、より良い中央区のために何をすべきかについて提案することができる。 |

【年間指導計画（歴史的分野：年間40時間）】

| 月 | 時間 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|--------|-----|---------------------------------------|--|---|
| 4月 | 2時間 | 2節 東アジア世界との関わりと社会の変動 | 東アジアのとの交流 産業の発達と民衆の生活 応仁の乱と戦国大名 室町文化とその広がり | 南北朝の内乱をへて、守護大名が力をつけた理由をつかむ 民衆が成長していくし過程や、仏教と文化の特色を理解する |
| 6・7・8月 | 5時間 | 4章 近世の日本 1節 ヨーロッパ人と の出会いと全国統一 | 織田信長・豊臣秀吉による統一 事業 兵農分離と朝鮮侵略 桃山文化 | ヨーロッパの文化の日本に与えた影響と、戦国時代からの流れと織豊政権の特色をつかむ |
| 9月 | 5時間 | 2節 江戸幕府の成立 の鎖国 | 江戸幕府の成立と支配のしくみ さまざまな身分とくらし 貿易の振興から鎖国へ 鎖国下の対外関係 | 江戸幕府の支配のしくみをとらえる 鎖国までの流れをつかむ |
| 10月 | 5時間 | 3節 産業の発達と幕 府政治の動き <u>学習基盤</u> B | 農業や諸産業の発達 都市の繁栄と元禄文化 享保の改革と社会の変化 幕府政治の改革 新しい学問と化政文化 外国船出現と天保の改革 | 産業の発達に伴い、交通が発達し、地域の結びつきができたことを理解する。 幕府の諸改革と社会的背景について理解する。 外国船の渡来と内政の危機による幕府政治のゆきづまりをつかむ |
| 11月 | 5時間 | 5章 開国と近代日本 の歩み 1節 欧米の進 出と日本の開国 | 近代革命の時代 産業革命と欧米諸国 ヨーロッパのアジア侵略 開国と不平等条約 江戸幕府の滅亡 | 開国から攘夷、倒幕へのさまざまな動きを整理する |
| 12月 | 5時間 | 2節 明治維新 | 新政府の成立 維新の三大改革 文明国をめざして 近代的な国際関係 民衆運動の高まり 立憲国家の成立 近代文化の形成 | 明治政府のとった中央集権づくりと外交をとおしてそのねらいをつかむ 大日本帝国憲法制定の過程をつかむ |
| 1月 | 5時間 | 3節 日清・日露戦争と 近代産業 | 欧米列強の侵略と条約改正 日清戦争、日露戦争 韓国と中国 産業革命の進展 近代文化の形成 | 帝国主義の中で、日清・日露戦争を経た日本の変化をとらえる 大戦前後の国際関係とその変化を理解する |
| 2月 | 5時間 | | | |
| 3月 | 3時間 | | | |

| | | | |
|----|----|----|----|
| 教科 | 数学 | 学年 | 2年 |
|----|----|----|----|

【教科の目標】

- ① 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立2元1次方程式について理解し、それを用いる能力を養う。
- ② 基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法を理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。
- ③ 具体的な事象を調べることを通して、1次関数について理解するとともに、関数関係をみだし表現し考察する能力を養う。
- ④ 不確定な事象を調べることを通して、確率について理解し用いる能力を培う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

東京書籍：数学の学習ノート（正進社）
 使用教室：・教室、数学教室、数学少人数教室 ・一斉授業、少人数指導、TT授業

【評価の観点と方法】

| 評価観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|--|---|
| 知識・技能 | ・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数式化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 | 定期考査・単元テスト・中テスト |
| 思考・判断・表現 | 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 | 定期考査・単元テスト・中テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。 | 授業へ積極的に取り組む態度（発言内容や話し合い活動、発表等） ・週末課題・問題集・テストの解き直し・テストの振り返り |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するだけでなく、手を動かして計算することが大切。
- 計算の過程を大切にすること。
- 解けた喜びを感じるようにすること。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守る。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き大切なポイントはメモする。

【家庭学習の進め】

- ①とにかく一番大切なことは、学校の1時間1時間の授業を大切に聞くこと。書く前に説明をよく聞き頭に入ったことをノートに写すこと。
- ②問題を解いていて間違えたら消さないで新たに書き換え、どんな間違えをしたか明らかにすること。
- ③理解できなかったことは早めに授業者に聞くこと。
- ④家で教科書やノートを見直すこと。読むだけでも良いが、数問の問題を解いた方が良い。
- ⑤毎日5分でもよいので繰り返す。「継続は力なり」。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス②言語能力×思考力・判断力・表現力

- A 第1章「文字式の利用」カレンダーの数をいろいろ囲んだ数の和には、どんな性質があるかを、文字を使って説明する。
- B 第6章「確率」くじをひく順番において、何番目にひく方が当たりやすいか、多数回の実験を行うことで、傾向を読み取り、説明する。（問題発見、解決力・学びに向かう力）
- C 第7章「四分位範囲と箱ひげ図」花見の時期にどんな商品がよく売れるかコンビニのデータを活用し販売数の傾向を調べ、発表する。

<数量・関数>

| 月 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|---|---|---|--|
| 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 月 | 15 ⑧ 1章 文字を使って説明しよう [式の計算] (1) 式の計算 ⑥ (2) 文字式の利用 [A] 学習基盤 A ① 章の問題 | ○単項式と多項式 ○式の次数 ○同類項 ○多項式の加減と減法 ○多項式の乗法・除法 ○数と多項式の乗法・除法 ○いろいろな計算 ○多項式と数との計算 ○代入と式の値 ○数の性質の調べ方 ○等式の変形 | ○式の次数、係数、項の意味を知る ○同類項の意味を知り、まとめることができる。 ○式の加減と減法の計算ができる。 ○単項式の乗法・除法の計算ができる。 ○乗法・除法の混じった計算ができる。 ○代入と式の値を求めることができる。 ○数量関係を文字を使って表わすことができる。 ○等式を目的に応じて変形することができる。 |
| 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 月 | 12 ⑦ 2章 方程式を利用して問題を解決しよう [連立方程式] (1) 連立方程式 ④ (2) 連立方程式の利用 ① 章の問題 | ○2元1次方程式とその解 ○連立方程式とその解 ○連立方程式の解き方と代入法 ○加減法と代入法 ○いろいろな連立方程式 ○連立方程式を使った問題の解き方 ○速さの問題 ○割合の問題 | ○2元1次方程式の意味を知る。 ○連立方程式を解くことができる。 ○加減法と代入法を使って連立方程式を解くことができる。 ○かっこ、小数、分数を含む連立方程式が解ける。 ○連立方程式を使って問題解決のための考え方とその手法を理解する。 ○時間・速さ・道のりの関係を解くことができる。 ○割合の問題を解くことができる。 ○伴って変わる2つの量の関係を知る。 |
| 1 ・ 2 ・ 3 月 | 19 ⑩ 3章 関数を利用して問題を解決しよう [1次関数] (1) 1次関数 ④ (2) 1次関数と方程式 ④ (3) 1次関数の利用 ① 章の問題 | ○関数 ○1次関数 ○1次関数の値の変化 ○変化の割合 ○1次関数のグラフ ○1次関数を求める ○1次関数のグラフのかき方 ○変域とグラフ ○直線の式の求め方 ○2元1次方程式のグラフのかきかた。 ○連立方程式の解とグラフ ○1次関数の活用 | ○1次関数の意味を知る。 ○対応表が作れる。 ○対応表からグラフがかける。 ○1次関数の変化の割合の意味を知る。 ○1次関数の傾き、切片からグラフがかける。 ○1次関数の式を計算で求めることができる。 ○2元1次方程式のグラフの意味を知る。 ○連立方程式の解は2つの2元1次方程式の交点の座標であることを理解する。 |

<図形・データ>

| 月 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|-----------------------------|---|--|--|
| 4 ・ 5 ・ 6 月 | 16 4章 図形の性質の調べ方を考えよう [平行と合同] ③ (1)説明のしくみ ⑤ (2)平行線と角 ⑥ (3)合同な図形 ① 章の問題 | ○対頂角 ○同位角と錯角 ○平行線と同位角 ○平行線と錯角 ○三角形の内角と外角 ○多角形の内角の和と外角の和 ○合同な図形 ○多角形の合同 ○三角形の合同条件 ○図形の性質の確かめ方 ○仮定・結論・証明 ○図形の基本性質と定理 | ○多角形の内角の和を求めることを理解する。 ○多角形の内角の和を求める公式を知る。 ○対頂角、錯角、同位角の意味を知る。 ○平行線の性質を知る。 ○合同な図形の性質を知る。 ○合同条件を知る。 ○三角形の合同条件を使って説明することができる。 |
| 7 ・ 9 ・ 10 月 | 21 5章 図形の性質を見つけて証明しよう [三角形と四角形] ⑧ (1)三角形 ⑫ (2)平行四辺形 ① 章の問題 | ○二等辺三角形の定義 ○二等辺三角形の性質 ○正三角形の性質 ○2つの角が等しい三角形 ○定理の逆 ○斜辺の場所 ○直角三角形の合同条件 ○平行四辺形の性質 ○平行四辺形になるための条件 ○特別な平行四辺形 ○長方形、正方形、ひし形の性質 ○等積変形のしかた | ○定義と定理の意味を理解する ○二等辺三角形の性質を理解する ○仮定と結論を逆にすることができる。 それが正しいか判断する ○直角三角形の合同条件を知る。 ○平行四辺形の性質やなるための条件を証明することができる。 ○特別な平行四辺形の性質を調べることができる。 ○等積変形の作図ができる。 |
| 1 ・ 2 月 | 9 6章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率] ⑥ (1)確率 ② (2)確率による説明 学習基盤B ① 章の問題 | ○起こりうる場合の数を求める ○確率の求め方 | ○起こりうる場合の数を求めることができる。 ○場合の数の求め方、樹形図、書き出し法。 ○確率を求めることができる。 |
| 2 ・ 3 月 | 5 7章 データを比較して判断しよう [データの比較] ④ 四分位範囲と箱ひげ図 学習基盤C ① 章の問題 | ○箱ひげ図と四分位数、四分位範囲の意味 ○箱ひげ図 ○ヒストグラムと箱ひげ図 | ○四分位数や四分位範囲の意味を理解し、求めて箱ひげ図に表すことができる。 ○四分位範囲や箱ひげ図の必要性を理解する ○箱ひげ図を用いて、データ分布傾向を比較し、判断することができる。 |

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 教 科 | 理 科 | 学 年 | 2 年 |
|-----|-----|-----|-----|

【教科の目標】

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書（東京書籍）、理科便覧（浜島書店）、理科ノート（新学社）、理科の完全学習（正進社）、教室と理科室、一斉授業

【評価の観点と方法】

| 評価観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|---|--|
| 知識・技能 | 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | 発言・ワーク・実験レポート ワークシート・小テスト・定期考査 ノート・パフォーマンスなど |
| 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 | 発言・小テスト・定期考査 実験レポート・ワークシート ノートなど |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 授業態度・ワーク・小テスト 定期考査・実験レポート ワークシートなど |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するとともに、「なぜそうなるか」と常に疑問を抱くことが大切です。
- 実験の過程を大切にしましょう。
- 発見の喜びを感じるようにしましょう。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守りましょう。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き大切なポイントはメモをする習慣をつけましょう。

【家庭学習の進め】

- その日に学習した単元項目について、ワークを活用して家庭学習の習慣をつけましょう。
- 定期考査は、授業中に使用したプリント・ワークから類似問題を出題しますので、試験勉強対策として、完全に理解するまで学習しましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス①言語能力×知識・技能

- A 単元2 1章 生物と細胞「水中の小さな生物」 水中の小さな生物を顕微鏡で観察するための技能を身に付けている。また、大きさを知るための基準となるものを設定し、生物のスケッチとあわせて正しく記録している。（言語能力、知識・技能）
- B 単元2 イカの解剖 これまでの学習をふり振り返りながら、イカの解剖と観察について計画を立て、自ら探究しようとしている（問題発見・解決力、学びに向かう力）
- C 単元3 1章 気象観測 気象庁のサイトなどから近隣の気象データを調べる。調べたデータと観測結果を1つのグラフにまとめて表現、比較する。（情報活用能力、思考力・判断力・表現力）

年間指導計画【化学・生物・地学・物理分野（140時間）】

| 月 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|----|-----------------------------------|---|---|
| 4 | ⑧ 単元1 化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち | ○ホットケーキの秘密 ○水の分解 ○物質をつくっているもの ○分子と化学式 ○単体と化合物・物質の分類 | ・物質のなり立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。 |
| 5 | ⑦ 2章 物質どうしの化学変化 | ○異なる物質の結びつき ○化学変化を化学式で表す | ・化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。 |
| | ⑦ 3章 酸素がかかわる化学変化 | ○物が燃える変化 ○酸化物から酸素をとる化学変化 | ・酸化や還元の実験を通して、酸化や還元は酸素が関係する反応であることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 |
| 6 | ⑦ 4章 化学変化と物質の質量 | ○化学変化と質量の変化 ○物質と物質が結びつくときの物質の割合 | ・化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。 |
| | ④ 5章 化学変化とその利用 | ○化学変化と熱 | ・化学変化によって熱をとり出す実験を通して、化学変化には熱の出入りがともなうことを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 |
| | ① 単元末 | ○学習内容の整理・確かめと応用 | |
| 7 | ⑨ 単元2 生物のからだのつくりとはたらき 1章 生物と細胞 | ○水中の小さな生物 【A】 ○植物の細胞 ○動物の細胞 ○生物のからだと細胞 | ・植物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 |
| 9 | ⑩ 2章 植物のからだのつくりとはたらき | ○葉と光合成 ○光合成に必要なもの ○植物と呼吸 ○植物と水 ○水の通り道 | ・植物のからだのつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。 |
| 10 | ⑫ 3章 動物のからだのつくりとはたらき | ○消化のしくみ ○吸収のしくみ ○呼吸のはたらき ○血液のはたらき ○排出のしくみ | ・動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、動物が生命を維持するはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。 |
| 11 | ⑤ 4章 刺激と反応 | ○刺激と反応 ○神経のはたらき ○骨と筋肉のはたらき ○イカの解剖 【B】 | ・刺激と反応について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物のからだのつくりとはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。 |
| | ① 単元末 | ○学習内容の整理・確かめと応用 | |

| 月 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい | | |
|----|-------------|---|---|--|---|
| 12 | ⑮ ⑦ ⑩ | 単元3 気象のしくみと天気の変化 1章 気象の観測 2章 雲のでき方と前線 3章 大気の動きと日本の天気 | ○気象の観測【C】 ○大気圧と圧力 ○気圧と風 ○水蒸気の変化と温度 ○雲のでき方 ○気団と前線 ○大気の動きと天気の変化 ○日本の天気と季節風 ○日本の天気の特徴 ○天気の変化の予測 ○気象現象がもたらすめぐみと災害 | <ul style="list-style-type: none"> ・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測、霧や雲の発生などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。 ・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。 ・日本の気象、自然のめぐみと気象災害に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。 ・日本の気象、自然のめぐみと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係を見いだして表現する。 | |
| | ① | 単元末問題 | ○学習内容の整理・確かめと応用 | | |
| | 1 | ⑦ ⑮ | 単元4 電気の世界 1章 静電気と電流 2章 電流の性質 | ○静電気と放電 ○電流の正体 ○放射線の性質と利用 ○電気の利用 ○回路に流れる電流 ○回路に加わる電圧 ○電圧と電流と抵抗 ○電気エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ・静電気や放電に関する経験から課題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、静電気の性質や放電について規則性や関係性を見いだして表現する。 ・電気に関する観察、実験を見通しをもって行い、電流と電圧に関する規則性や関係性を見いだして表現する。 ・電気に関する観察、実験を通じて、回路の各点に流れる電流や、各部分の電圧について調べる技能を身につけるとともに、電流、電圧のはたらきを理解する。 |
| | | | ⑬ | 3章 電流と磁界 | ○電流がつくる磁界 ○モーターのしくみ ○発電機のしくみ ○直流と交流 |
| ① | | 単元末 | ○学習内容の整理・確かめと応用 | | |

| | | | |
|----|----|----|----|
| 教科 | 英語 | 学年 | 2年 |
|----|----|----|----|

【教科の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 』（三省堂）

副教材：『Joyful Workbook 2』（新学社）、『Let's Enjoy BINGO 2 』（浜島書店）、
『確認から発展へ2』（学宝社）、『サマー・アプローチ 英語2』（教育同人社）、
『ウインター・アプローチ 英語2』（教育同人社）

使用教室：2年2組教室、2年3組教室、2年4組教室、2年5組教室、3階進路指導室、3階英語室
4階国際理解教室

指導形態：少人数指導、必要に応じてTT指導

【評価の観点と方法】

| 観点 | 評価規準 | 評価の方法 |
|---------------|--|---|
| 知識・技能 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 | ・定期考査（「知識・技能」の分野） ・単元テスト（「知識・技能」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト 等 |
| 思考・判断・表現 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりできる。 | ・定期考査（思考・判断・表現の分野） ・単元テスト（「思考・判断・表現」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト 等 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。 | ・授業観察（言語活動への取り組み・コミュニケーションの継続） ・振り返りシートや宿題の取り組み状況 ・ノートやワーク等の提出状況 ・定期考査（主体的に学習に取り組む態度の分野） ・パフォーマンステストへの取り組み状況 等 |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本は、「先生の話をよく聞くこと」です。授業中の集中を大切にしましょう。
- 単語や表現は「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の順で覚えます。始めの「聞く」を大切に、あとのステップに繋げていきましょう。
- まず覚える、覚えたら使う、使う場面を想定して学習するようにしましょう。
- わからない文法事項は、理解できるよう復習と見直しを行ないましょう。
- 授業中に使ったプリントは、きちんとファイルに保管して復習に活用できるようにしましょう。
- 授業準備、課題の提出期限をしっかりと守りましょう。

【家庭学習のポイント】

- 家庭学習では、次のことをやりましょう。
- ①デジタル教科書の音声を聞きながら音読練習(目安は1ページにつき5回)
- ②音読しながら本文をくりかえし書く練習(目安は1ページにつき2回)
- ③単語練習(日本語を見て英語を正しく書けるようになるまで)
- ④ワークを解く(自力で解く→教科書等を見ながら解く→答え合わせ)
- ⑤テストの間違え直し(間違えた理由や文法事項を確認する)
- その日に習ったことを復習することや、宿題などをコツコツやりましょう。語学習得は、「1週間分をまとめて1回」ではなく、「毎日少しずつコツコツ」が大切です。
- 英単語・英熟語・英文を何度も声に出して読み、音とスペルを一致させて覚えるようにしましょう。
- 各種検定に積極的にチャレンジしよう!
- 配布されたプリントはファイルに入れて、学習に生かしましょう。
- 提出物は提出期限を必ず守りましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス② 言語能力×思考力・判断力・表現力

- A Reading for Information 1 施設の利用案内
施設の利用案内を読み、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。
- B Reading for Information 2 レストランのメニュー
レストランのメニューを読み、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。
- C Reading for Information 3 公園の看板
公園の看板を読み、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。

【年間指導計画(2年英語140時間)】

| 月 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|---|---|----------------------------------|---|
| 4 | Starter1 This Month's Books | 本の紹介記事の要約 | ●ブラウン先生がおすすめる英語の本の紹介を要約するために、Peter RabbitとSherlock Homesのあらすじと作者について書かれた記事を読んで、概要を捉える。 |
| | Lesson1 Peter Rabbit イギリス文学、ピーターラビット | 接続詞 when, if, 接続詞 that | ●接続詞 when, if や that を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●接続詞 when, if や that を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。 |
| 5 | Take Action! Listen1 図書館の案内 | 利用方法のアナウンスの内容理解 | ●図書館で本や雑誌を借りるために、図書館の利用方法について離された家分を聞いて、必要な情報を捉える。 |
| | Take Action! Talk1 どんなストーリーなの？ | 「質問する」「情報を付け加える」表現の意味や働きの理解 | ●「質問する」「情報を付け加える」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。 |
| | Get Plus1 May I ...? | May I ...? | ●May I ...?の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 |
| 6 | Lesson2 My Dream 自分の将来像、将来の夢 | to 不定詞(名詞用法・副詞用法・形容詞用法) | ●to 不定詞(名詞用法・副詞用法・形容詞用法)を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●to 不定詞(名詞用法・副詞用法・形容詞用法)を理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 |
| | Project1 将来の夢を紹介しよう | スピーチコンテストのために、将来について自分の考えや気持ちを話す | ●スピーチコンテストに参加するために、将来の夢や将来してみたいことについて、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて話す。 |
| | Take Action! Listen2 チャリティーのお知らせ | 注意事項についての英文を聞いて要点を捉える | ●学校で行われるチャリティーの情報を得るために、チャリティーで集める物やその目的、注意事項について話された英文を聞いて、要点を捉える。 |
| | Take Action! Talk2 それはいい案だね | 「意見を言う」「賛成する」表現の意味や働きの理解 | ●「意見を言う」「賛成する」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を用いて伝えたり相手からの質問に答えたりする。 |
| | Get Plus2 It is ... (for A) to ~ | It is ... (for A) to ~ | ●It is ... (for A) to ~の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 |
| | Reading for Information1 施設の利用案内 学習基盤 A | イベントの情報についての案内を読んで、必要な情報を捉える | ●質問に答えるために、利用料金やルール、イベントの情報などについて書かれた施設の利用案内を読んで、必要な情報を捉える。 |
| 7 | Lesson3 Every Drop Counts 自然科学、社会貢献活動 | There is [are]... 動名詞 | ●There is [are]...や動名詞を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●There is [are]...や動名詞を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。 |

| | | | |
|----|--|---|---|
| | Get Plus3 must / must not | must / must not | <ul style="list-style-type: none"> ● must / must not の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 |
| 9 | Lesson4 Uluru オーストラリア、地域の文化 | give + A + B, call/make + A + B | <ul style="list-style-type: none"> ● 〈動詞(give など)+A+B〉や〈動詞(call, make など)+A+B〉を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ● 〈動詞(give など)+A+B〉や〈動詞(call, make など)+A+B〉を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 |
| 10 | Take Action! Listen3 空港のアナウンス Take Action! Talk3 何が起きたの? Get Plus 4 宿題をしなければなりません Reading for Information2 レストランのメニュー 学習基盤 B Reading for Fun1 A Pot of Poison | 搭乗する飛行機の変更点について話された英文の理解 「つなぎ言葉を使う」「詳しい説明を求める」表現の意味や働きの理解 have to…や don't have to レストランのメニューを読んで必要な情報を得る 物語を読んで大まかな概要を捉える | <ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ行きの飛行機に乗るために、搭乗する飛行機の変更される点について話された英文を聞いて、必要な情報を捉える。 ● 「つなぎ言葉を使う」「詳しい説明を求める」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合う。 ● have to…や don't have to の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ● 決まった予算や条件の中で買う食べ物や飲み物を提案するために、料理や金額に書かれたレストランのメニューを読んで、必要な情報を捉える。 ● 物語の大まかな流れなどを理解するために、3人の小僧と和尚の通簿について書かれた物語を読んで、概要を捉える。 |
| | Lesson5 Things to Do in Japan 旅行・観光異文化体験 | 形容詞の比較級(-er/-est)、形容詞の比較級(more/most)や同等比較(as ... as ~)・副詞の比較級 | <ul style="list-style-type: none"> ● 形容詞の比較級(-er/-est)、形容詞の比較級(more/most)や同等比較(as ... as ~)・副詞の比較級を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ● 形容詞の比較級(-er/-est)、形容詞の比較級(more/most)や同等比較(as ... as ~)・副詞の比較級を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 |
| 11 | Take Action! Listen4 イベントの紹介 Take Action! Talk4 一緒に遊園地に行かないの? Get Plus5 how など+to Reading for Information3 公園の看板 学習基盤 C | イベント情報について話された英文を聞いて、要点を捉える 「誘う」「誘いに応じる。誘いを断る」表現の意味や働きの理解 疑問詞+to 利用時間やルールについて書かれた看板を読んで情報を捉える | <ul style="list-style-type: none"> ● 遊園地でできることを知るために、遊園地のイベント情報について話された英文を聞いて、要点を捉える。 ● 「誘う」「誘いに応じる。誘いを断る」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ● 疑問詞+to の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ● 公園の利用方法を理解し、質問に答えるために、利用時間やルールについて書かれた公園の看板を読んで、必要な情報を捉える。 |

| | | | |
|----|--|---|--|
| | Project2 修学旅行のプランを提案しよう | アンケート結果を読んだりして、自分の考えやおすすめを簡単な語句や文で書く。 | ●海外の姉妹校の修学旅行先を提案するために、姉妹校の生徒が日本でしたいことについてのアンケート結果を読んだりして、おすすめの行き先の情報や自分の考えを、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く。 |
| 12 | Lesson6 Tea from China 中国、お茶の文化と歴史 | 現在完了形(継続用法)の肯定文・疑問文・否定文 | ●現在完了形(継続用法)の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ●現在完了形(継続用法)の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝えたり、正確に書いたりする。 |
| 1 | Take Action! Listen 5 ラジオニュース Take Action! Talk5 お手伝いしましょうか GET Plus6 大きい声で話していただけますか。 Reading for Information4 オリビエサラダのレシピ | 事件について話された英文を聞いて、概要を捉える 「申し出る」「困っていることを伝える」表現の意味や働きの理解 Could you...? レシピを読んで、必要な情報を捉える | ●臨時のニュースを理解するために、近所で起こった事件について話された英文を聞いて、概要を捉える。 ●「申し出る」「困っていることを伝える」表現の意味や働きの理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ●Could you...?の意味や働きの理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。 ●料理を作るために、材料や手順について書かれたレシピを読んで、必要な情報を捉える。 |
| 2 | Lesson7 Rakugo Goes Overseas 日本の伝統文化、英語落語 | 現在完了形(完了用法)(経験用法)の肯定文・疑問文・否定文 | ●音声に注意しながら、1日の生活を表す動詞句を身につける。 ●現在完了形(完了用法)(経験用法)の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える ●現在完了形(完了用法)(経験用法)の肯定文・疑問文・否定文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝えたり、正確に書いたりする |
| | Take Action! Listen6 プレゼントの相談 Take Action! Talk6 それもいい案だと思うけど Project3 ディスカッションをしよう | プレゼントの候補についての英文を聞いて要点を捉える 「意見を言う」「反対する」表現の意味や働きの理解 意見を聞いて、テーマを選んだり選んだ理由を述べ合ったりする | ●退院のお祝いに何を渡すか検討するために、2つのプレゼントの候補について話された英文を聞いて要点を捉える。 ●「意見を言う」「反対する」表現の意味や働きの理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ●わかばフェスティバルのテーマを決めるために、わかば市のウェブサイトに掲載された市民の意見を聞いたり読んだりして、テーマの案やその理由を、簡単な語句や文を用いて述べ合う。 |
| 3 | Reading for Fun2 The Little Prince | 物語のおおまかな流れの理解 | ●物語の大まかな流れなどを理解するために、星の王子様の旅について書かれた物語を読んで、概要を捉える。 |

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 教 科 | 音 楽 | 学 年 | 2 年 |
|-----|-----|-----|-----|

【教科の目標】

- ・仲間と協力して表現をつくりあげる音楽活動の喜びを体験することを通して、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- ・曲想や背景、楽曲構造を理解させ、創意工夫を生かした音楽表現をさせる。
- ・多様な時代や国の音楽の学習を通して、音楽が人々の生活や文化に果たす役割について考えを深めさせる。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：音楽の教科書（教育出版）、MYSONG（教育芸術社）、音楽のハーモニー（正進社）、ファイル
 使用教室：第1音楽室、第2音楽室
 指導形態：一斉指導、グループ活動

【評価の観点と方法】

| | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|--|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を生かし、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。 ・音楽を評価しながら、よさや美しさについて説明している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に音楽活動に取り組み、体験を通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいこうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 音楽を聴くときは、いつも「どのような特徴があったか」、「どのような感じがしたか」を意識して聴き、言葉にして表現してみましょう。
- 音楽を表現するときは、基本的な技能の習得だけでなく、「意思の強さを伝えるために、ここははっきりと発音して歌おう」というように、曲の思いや意図を表現するために創意工夫をしよう。
- 授業では皆さんの発言を取り入れながら進めます。是非積極的に挙手して発言しましょう。また、仲間の意見もメモし、表現の幅を広げましょう。

【家庭学習の進め方】

- 教科書やワークシートを見て、授業で学習した内容を復習しましょう。
- 実技は、基本的な歌唱方法や表現の工夫を意識して練習しましょう。音程や歌詞は覚えましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑥情報活用能力×学びに向かう力

- A ベートーヴェン「交響曲第5番」を鑑賞し、曲想と音楽の構成を関わらせて味わい、オーケストラや交響曲のよさについて言葉で説明する。
- B 成田為三「浜辺の歌」において、曲想と音楽の構造等との関わりを理解し、音楽の諸要素の知覚・感受を基にどのように歌いたいか思いや意図をもって歌唱表現を工夫する。
- C 合唱曲は、クラス合唱をグループ発表や録音等で客観的に聴いて課題を見つけ、それを解決するためにどのような練習をするべきか話し合い、実践する。

【年間指導計画（音楽）】

| | 時間 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|-----|----|---|--|--|
| 4月 | 3 | 正しい発声を確認しよう。 ・音楽科のルール、合唱の基 本、楽典の基礎 ・発声練習の仕方 ・「校歌」 | ・基礎の姿勢、表情、発声 方法 ・校歌の旋律、強弱、歌詞 の意味について | ・音楽の基礎知識を身につけて、多様な 表現に生かす。 ・歌唱の正しい姿勢と発声方法を身につ ける。 |
| 5月 | | | | |
| 6月 | 3 | 連合音楽会に向けて ・合唱曲 | ・各声部の役割 ・パート練習の仕方 ・楽曲の基礎知識 | ・声部の役割を理解させ、全体の響きを 考えて表現させる。 ・歌詞の発音をはっきりと強調させる。 ・パート練習の仕方を習得させる。 |
| | 3 | オーケストラの響きを味わ おう。 ・Aベートーヴェン「交響曲 第5番」 | ・作曲者、作曲背景 ・オーケストラの楽器・音 色 ・曲の形式、構成 | ・オーケストラの楽器の種類や、音色の 特徴・魅力について理解する。 ・交響曲の形式や構造のよさや美しさを 味わう。 |
| 7月 | 13 | 学習発表会に向けて ・C合唱曲 | ・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり | ・歌詞の内容や曲想を感じ取らせ、表現 を創意工夫させる。 ・声部の役割を理解させ、全体の響きを 考えて表現させる。 |
| 9月 | | | | |
| 10月 | | | | |
| 11月 | 4 | 連合音楽会に向けて ・合唱曲 | ・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり | ・声部の役割を理解させ、全体の響きを 考えて表現させる。 ・歌詞の発音をはっきりと強調させる。 |
| 12月 | | | | |
| | 2 | 歌詞の内容を味わい、拍子や 伴奏の形、構成などから曲想 を感じ取ろう。 ・B「浜辺の歌」 | ・歌詞の内容について ・拍子や速度、強弱変化に ついて ・作曲背景について | ・歌詞の内容を味わわせ、言葉のフレー ズを生かして歌わせる。 ・曲想の雰囲気を感じ取らせ、歌詞の内 容と結びつけて歌唱表現をさせる |
| 1月 | 1 | B箏で「さくらさくら」を演 奏しよう。 | ・一年次の復習（姿勢、平 調子、楽譜の読み方） ・新しい奏法の習得 | ・箏特有の美しい音色を味わう。 ・「さくらさくら」の演奏をとして、正し い奏法を身につける。 |
| | 2 | 箏で「さくらさくら」の前奏 を創作しよう。 | | ・創作の材料である、平調子や箏の音色、 特別な奏法のよさや美しさを味わい、箏 の魅力を理解する。 |
| 2月 | 4 | 三送会、卒業式に向けて ・「蛍の光」他 | ・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり ・パート練習の仕方 ・楽曲の基礎知識 | ・これまでの学習内容を総合的に生かし て、自主的に協力して取り組むことがで きるようにする。 ・声部の役割を理解し、全体の響きを感じ 取って歌うようにさせる。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、心を込 めて歌うようにさせる。 |
| 3月 | | | | |

| | | | | |
|----|-----|----|----|---------|
| 教科 | 美術科 | 学年 | 2年 | (令和5年度) |
|----|-----|----|----|---------|

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

○感じる表す美術（浜島書店） ○教科書 ○レタリング・ポスター資料集 ○美術室 ○一斉授業 ○個別指導

【評価の観点と資料】

| 観点 | 評価基準 | 評価資料 |
|---------------|---|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術の基礎的技能を生かし、表現するための技能を新たに習得することができる。 ・日本及び諸外国の美術や美術文化を理解し国際理解を深めることができる。 ・生活や社会における美術の働きについて理解することができる。 ・制作順序など見通しをもち制作することができる。 ・用具を適切に扱うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・鑑賞ワークシート ・鑑賞レポート |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・題材に応じて発想力や想像力を働かせ、問題解決への道筋を立て、表現力を働かせて解決することができる。 ・造形的な視点で見つめて、感じたことや考えたことを言葉で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・アイディアスケッチ ・鑑賞ワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動に関心を持ち、授業に取り組むことができる。 ・意欲的に美術の能力を身につけようとしている。 ・提出物の提出期限を守ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート ・定期考査 |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 作品は制作過程も大切です。その授業ごとの目標を押さえ、達成できるよう努力しましょう。また、途中で放棄せず自分なりの完成を目指しましょう。
- 作品は限られた時間の中で制作するので、見通しをもって計画的に進めましょう。
- 目標に向けて構成を練り、身に付けた技能を発揮する力を身に付けようとしましょう。
- 表現や鑑賞の基本的な知識をしっかりと学び、身に付けましょう。

【家庭学習の進め方】

- 日頃の生活の中で、何かを見たり聞いたり触れたりしたときに、自分なりに感じ取る感性を大切にし、身の回りにあふれる色や形に関心を持ちましょう。
- 美術館や展覧会にも積極的に行き、感性や造形的視点を磨きましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス④情報活用能力×知識技能

- A「鑑賞」作品を造形的な視点で鑑賞し読み取ったことを文字を使って表現する。(言語能力・思考力、判断力、表現力)
- B「ポスター制作」どのように工夫したら伝えたい内容を伝えることができるのか発想・構想を働かせる。(問題発見、解決力・思考力、判断力、表現力)
- C「ピクトグラム」学んだり、調べたりした内容を活用し作品を制作する。(情報活用能力・思考力、判断力、表現力)

【年間指導計画（年間 35 時間）】

| 月 | 時数 | 単 元 名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|----|-----------|-----------------|----------------------------|---------------------------------------|
| 4 | 1 | 1.オリエンテーション | ○授業内評価について | ○授業の評価について理解することができる。 |
| 5 | 1 | 2.ピカソとキュビズム | ○ピカソの作品の鑑賞 | ○ピカソの作品の鑑賞を通して造形的な見方・考え方を深める。 |
| | 1 | 3.マークで伝える | ○マークのデザインについて | ○マークのデザインについての知識を身につける。 |
| 6 | 4 | 4.ピクトグラム C | ○ピクトグラムを使い伝えたい内容を伝えることについて | ○ピクトグラムを使いデザインする力を身につける。 |
| | 2 | 5.漫画の表現 | ○漫画の表現について | ○漫画の表現や技法についての知識を身につける。 |
| 7 | 2 (11) | 6.ポスター制作 B | ○ポスターを使い伝えたい内容を伝えることについて | ○色や形、文字を使いポスターを使いデザインする力を身につける。 |
| 9 | 1 | 7.構成と装飾 | ○デザインの構成と装飾について | ○構成と装飾を考えデザインする力を身につける。 |
| | 1 | 8.版画の種類 | ○版画の種類や表現方法について | ○版画の種類や表現方法についての知識を身につける。 |
| 10 | 6 | 9.シルクスクリーン | ○シルクスクリーンの技法を使い構成や装飾について | ○シルクスクリーンの技法を使い構成と装飾を考えデザインする力を身につける。 |
| 11 | 2 | 10.鑑賞 A | ○制作した作品を鑑賞する | ○造形的な視点で見方・考え方を深める。 |
| 12 | 3 (13) | 11.銀座 T シャツデザイン | ○デザインの構成と装飾について | ○構成と装飾を考えデザインする力を身につける。 |
| 1 | 2 | 12.色々な彫刻:ロダン | ○彫刻作品、ロダンの作品の鑑賞 | ○彫刻作品、ロダンの作品を通して造形的な見方・考え方を深める。 |
| 2 | 6 | 13.立体の表現 | ○彫刻を通して立体の表現について学ぶ | ○彫刻を通して立体表現をする力を身につける。 |
| 3 | 2 (10) | 14.1 年間の振り返り | ○1 年間で制作した作品を振り返る | ○1 年間で制作した作品を振り返り、今後の学習に活かす。 |

中央区立銀座中学校年間シラバス

| | | | | |
|----|-------|----|----|---------|
| 教科 | 保健体育科 | 学年 | 2年 | (令和5年度) |
|----|-------|----|----|---------|

【教科の目標】

体育的活動・保健の授業を通して、スポーツや体を動かす喜びを味あわせる。また身体や健康に関する知識、理解を深めさせる。本校の保健体育科で育てたい生徒像は以下の通りである。

- ◇自分で健康の保持・増進、安全に配慮できる生徒。
- ◇自分で体力づくりができる生徒。
- ◇積極的に運動に親しみ、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる生徒。
- ◇苦しさを乗り越えて問題を解決することのできる生徒。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇使用教材：保健体育教科書（東京書籍）、図解中学保健体育（あかつき）、保体資料ノート
- ◇使用教室：各教室、体育館、校庭、屋上プール、屋上運動場
- ◇指導携帯：一斉授業、課題別グループ学習、習熟度別グループ学習

【評価の観点と資料】

| 観 点 | 評 価 規 準 | 評 価 資 料 |
|---------------|---|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的な実践に関して具体的な事柄や生涯に渡って運動を豊かに実践するための理論について理解している。 ・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 ・個人生活における健康・安全について科学的に理解し、基本的な技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇授業への参加姿勢や取り組み ◇学習カード ◇発表・発言 ◇宿題・ノート提出 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、それらを他者に伝えている。 ・個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇技能向上の取り組み ◇安全管理への配慮 ◇学習カード ◇発表・発言 ◇学習カード |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に組もうとしている。 ・健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇話を聞く姿勢・態度 ◇定期考査 ◇学習カード ◇授業観察 |

【授業の進め方と学習のポイント】

- ◇基礎・基本を大切にして、関心・意欲を高める。
- ◇基礎体力の向上と各種の運動技能の習得を図る。
- ◇準備や片付けをみんな協力して行う態度を養う。
- ◇自己の能力を分析し、練習を工夫してその能力を高めることができる。
- ◇習熟度別の授業形態を工夫する。

【家庭学習の進め方】

日頃から新聞やテレビ、インターネットなどでスポーツニュースに親しむ。特にそのシーズンのスポーツや全国的、世界的に活躍している人物や競技を調べると良い。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑧問題発見・解決能力×思考力・判断力・表現力

- A 各種目の歴史や特性、競技規則などを調べて種目への理解を深める。（情報活用能力・学びに向かう力）
- B 器械運動で自分の演技を記録し、課題を発見し、解決方法を見つける。（問題発見・解決力・思考力・判断力・表現力）
- C ダンスの単元で、グループで意見を出し合い、作品をまとめあげる。（言語活用能力・思考力・判断力・表現力）

【年間指導計画（年間105時間）】 <2年>

| 月 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|-----|-----------------------------|---|---|
| 4月 | ⑤ *集団行動 体力測定 | <ul style="list-style-type: none"> 集合隊形、基本姿勢 準備運動、ラジオ体操 体力テストの測定 | <ul style="list-style-type: none"> 体育活動を行う集団としての素速さや合理性を高める |
| 5月 | ⑥ *陸上競技【A】 | <ul style="list-style-type: none"> 短距離走、ハードル走、 | <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる |
| | ⑥ *体育大会種目練習 | <ul style="list-style-type: none"> 短距離走、リレー | <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる・個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める。 自己の能力の向上を目指し努力する |
| 6月 | ⑩ *球技1・走り高跳び | <ul style="list-style-type: none"> バスケットボール、走り高跳び 競技の中での効率的な動き | <ul style="list-style-type: none"> 自己やチームの特徴に応じて、作戦を立て、役割に応じた活動をする。 |
| 7月 | ⑥ *ボッチャ | <ul style="list-style-type: none"> 基本技能の習得 戦略的知識の習得 | <ul style="list-style-type: none"> 水に親しみ楽しく泳ぎ、自己の能力に適した課題を考えて練習する 記録測定では自己の記録の向上を目指し努力する。 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる |
| | ⑩ *水泳 | <ul style="list-style-type: none"> 泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ） | <ul style="list-style-type: none"> 傷害の発生要因、傷害の防止、応急手当の意義を知り、危険の予測や回避の方法を考え、表現する。 |
| | ⑧ *傷害の防止 | <ul style="list-style-type: none"> 傷害の発生要因、交通事故の発生要因、応急手当の意義と方法等 | |
| 9月 | ③ *運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方 | <ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツの効果、運動やスポーツの学び方等 | <ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツの効果や学習法、安全の必要性を知る。 |
| 10月 | ⑩ *ダンス【C】 | <ul style="list-style-type: none"> 基本技能の習得 効率的な動き 技の組み合わせ、連続技 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能を身に付けさせる。 自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。 |
| 11月 | ⑭ *器械運動【B】 (マット、跳び箱運動) | <ul style="list-style-type: none"> 創作ダンス | <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題を設定して集団としての表現をしていく。 |
| 12月 | ⑫ *球技2 | <ul style="list-style-type: none"> バレーボール サッカー | <ul style="list-style-type: none"> 個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める 基本技能を高めるとともに、パスを効率よく使いチームとして多彩な攻めができるようになる。 |
| | ⑧ *健康な生活と疾病の予防② | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の起こり方、生活習慣病の予防等 | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と関連の深い疾病の予防や飲酒、喫煙などと健康の関わりについて知る。 |
| 1月 | ⑭ *武道（柔道） *陸上競技 | <ul style="list-style-type: none"> 受身、固め技、投げ技 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能を身に付けさせる。 自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。 基本技能、安全を重視した試合をする |
| 2月 | | | <ul style="list-style-type: none"> 個人的技能身に付け練習や記録測定の中で仲間と協力してできる |
| 3月 | | <ul style="list-style-type: none"> 長距離走 ペース走、走り方、呼吸法 | |

| | | | |
|-----|-----|-----|----|
| 教 科 | 技術科 | 学 年 | 2年 |
|-----|-----|-----|----|

【教科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

◇技術・家庭「技術分野」(開隆堂) ◇地下1階 木工室・金工室
 ◇エネルギー変換の技術 ◇生物育成の技術 ◇情報の技術

【評価の観点と方法】

| | 評価規準 | 評価方法 |
|---------------|---|------------------------------------|
| 知識・技能 | エネルギー変換、生物育成、情報の技術について理解するとともに、それらに関わる技能を身に付けている。 | ◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇定期考査 |
| 思考・判断・表現 | エネルギー変換、生物育成、情報の技術について、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇小テスト ◇定期考査 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | エネルギー変換、生物育成、情報の技術を活用し、よりよい生活の社会や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 | ◇作品 ◇課題等提出物内容 |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 座学での内容を踏まえて、製作・作業実習に入るので、授業内容をよく理解し、不明な点・疑問な点はその日のうちに解決すること。
- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、授業内容に疑問を持つ程度に真剣に取り組むこと。
- 作業は安全を第一として参加すること。
- 作業は座学の内容を十分復習をして、作業の目的をはっきりと認識して取り組むこと。
- 提出物・作業は期限を守ること。
- 定期考査の前には、プリントをよく参照すること。

【家庭学習の進め方】

一番大切なことは、授業内容の理解です。プリントの内容や授業中の解説を復習するとともに、新たな言葉は調べ学習なども行い理解を深めることが大切です。
 図面や専門用語の多いことが特徴の教科です。特殊な言い回しや用語を覚えると先生との授業中の会話に無駄がなくなります。
 思考・判断・表現についての力を身につけるためには、社会での技術の活用を知ること大切です。授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をしましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス⑨

- A「生育環境の違いによる植物の成長の差を確かめよう」4人班でそれぞれ別の生育環境を設定し、豆苗を育成する。その結果を考察し、収量を上げるための改善案を提案する。
- B「エネルギーミックスによる効率的な発電計画」現在の日本における発電の問題点を解決するために、最適はエネルギーミックスを提案する。
- C「計測・制御の基本プログラム」自分の生活空間における課題を発見し、自動制御を用いて計測し、

●2 年生

| 時間 | 指導項目（単元名） | 学習内容 | 学習のねらい | |
|----|---------------------------------------|---------------------------------------|--|---|
| 1 | C 生物育成の技術 | 生物育成の技術の原理・法則と仕組み | <ul style="list-style-type: none"> ■生物育成の技術の目的を知る。 ■生物育成の技術の種類について知る。 | |
| 2 | | 作物の育成環境を調節する技術 | <ul style="list-style-type: none"> ■作物の育成環境を調節する技術について知る。 | |
| 3 | | 作物の成長を管理する技術 | <ul style="list-style-type: none"> ■作物の成長を管理する技術について知る。 ■作物の成長を管理する技術とその目的についてまとめることができる。 | |
| 4 | | 動物を育てる技術 | <ul style="list-style-type: none"> ■人と動物との関わりについて知る。 ■家畜としての動物の利用方法を知る。 | |
| | | 水産生物を育てる技術 | <ul style="list-style-type: none"> ■水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について知る。 ■水産生物を健康に育てるための技術を知る。 | |
| 5 | 生物育成の技術による問題解決 実習：スプラウト（豆苗）の栽培 | 問題を発見し、課題を設定しよう | <ul style="list-style-type: none"> ■生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 | |
| 6 | | 生物の育成計画を立てよう | <ul style="list-style-type: none"> ■生物を育てる目的を考え、生物の成長に合わせた育成計画を立てることができる。 | |
| 7 | | 生育環境による植物の成長の違いを確かめよう 学習基盤A | | <ul style="list-style-type: none"> ■安全に配慮し、成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行うことができる。 ■管理作業の内容や成長過程を、栽培記録表にまとめることができる。 ■栽培の結果から、収量を増やすにはどうしたらよいかを提案することができる。 |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | 社会の発展と生物育成の技術 | 生物育成の技術の最適化 | <ul style="list-style-type: none"> ■自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。 | |
| 12 | B エネルギー変換の技術 | エネルギーとエネルギー変換 エネルギー資源の種類 | <ul style="list-style-type: none"> ■生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について知る。 ■エネルギー資源について知る。 | |
| 13 | | 発電の仕組みと特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ■さまざまな発電の仕組みと特徴について知る。 | |
| 14 | | 電気を供給する仕組み | <ul style="list-style-type: none"> ■電源の種類と特徴について知る。 ■送電・配電について知る。 | |
| 15 | | 電気機器を安全に使用するための技術 | <ul style="list-style-type: none"> ■電気を安全に使うための技術の工夫について知る。 ■電気機器の安全な使い方を知ることができる。 | |
| 16 | | 回転運動と機械が動くしくみ | <ul style="list-style-type: none"> ■機械が運動を伝える仕組みについて知る。 ■回転速度と回転力の関係を知る。 ■往復直線運動や揺動運動などを伝えるリンク機構やカム機構の仕組みを知る。 | |
| 17 | | エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み | デジタル時計のしくみと工具の使用法 | <ul style="list-style-type: none"> ■製作品のエネルギー変換のしくみを知り、構想を確認する。 ■工具の使用法を知る。 |
| 18 | 実習：センサ搭載型デジタル時計の製作 | 回路の設計 | <ul style="list-style-type: none"> ■製作品の回路と本体の設計を確認する。 | |
| 19 | | 回路の製作 | <ul style="list-style-type: none"> ■回路に使用されている各部品の役割を知る。 ■工具を使用してはんだづけを行い、回路を製作することができる。 | |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |

| | | | | |
|----------------|------------------------|---|---|--|
| 22 | | | 組み立て 点検 | <ul style="list-style-type: none"> ■ドライバーの使用方法を知り、ネジ止めを行うことができる。 ■回路計を用いて回路の安全点検を行うことができる。 |
| 23 | D 情報 の 技 術 | エネルギー変換の技術による問題解決 (エネルギーミックスによる効率的な発電計画) | 問題を発見し、課題を設定しよう | ■発電における問題を様々な視点から見だし、課題を設定することができる。 |
| 24 25 | | | 持続可能な社会のための発電計画を立てよう | ■発電効率や環境負荷を考慮し、エネルギーミックスによる効率的な発電計画を作成することができる。 |
| 26 | | | 発表および相互評価 学習基盤B | ■自身が作成した発電計画と他者の計画を比較し、自身の計画を適切に評価し、最適化を計ることができる。 |
| 27 | | | これからのエネルギー変換の技術 | ■持続可能な社会の構築のために、これからのエネルギー変換の技術について考えることができる。 |
| 28 | | | 情報の技術の原理・法則と仕組み | 計測・制御システムの基本 |
| 29 | | 計測・制御の基本プログラム | ■計測・制御システムにおける基本的なプログラムの形や、役割を知る。 | |
| 30 | | 情報の技術による問題解決 (教室内の環境改善を行うための計測・制御システムを考えたよう) | 問題を発見し、課題を設定しよう | ■計測・制御システムによって解決できる問題を見つけることができる。 発見した問題を解決するための課題を設定することができる。 |
| 31 | | 計測・制御システムを構想しよう 学習基盤C | ■問題を解決するための計測・制御システムに必要な情報を収集し、解決策を具体化することができる。 | |
| 32 33 34 | | 計測・制御システムのプログラムを制作しよう | <ul style="list-style-type: none"> ■安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる。 ■エネルギー変換の技術による問題解決の学習を生かして、自動化・システム化が実現するプログラムを制作することができる。 | |
| 35 | | 発表および相互評価 | ■自身が作成したシステムと他者のシステムを比較し、自身の計画を適切に評価し、最適化を計ることができる。 | |

※学校行事、授業の進捗状況、材料の入荷状況により、学習内容の順番を入れ替えることがあります。

| | | | | |
|----|-----|----|----|---------|
| 教科 | 家庭科 | 学年 | 2年 | (令和5年度) |
|----|-----|----|----|---------|

【教科の目標】

生活についての理解を深め、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技術を身に付ける。実践的・体験的な活動を通して、課題を見つけて解決したり、考察したことを論理的に表現したりして、生涯を見通して課題を解決する力を身につける。家族や地域の人々の関わりを考え、協働し、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫する実践的な態度を身につける。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

◇技術・家庭 家庭分野（開隆堂）、技・家ノート 家庭分野（開隆堂）、プリント、ファイル
 ◇各教室、被服室、調理室（感染症の状況を踏まえ使用検討する） ◇一斉授業、グループ学習指導

【評価の観点と資料】

| 観点 | 評価基準 | 評価資料 |
|---------------|---|-----------------------------|
| 知識・技能 | 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技術を身に付けている。 | ワーク・プリント・作品・定期考査・課題等提出物内容 |
| 思考・判断・表現 | 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ワーク・プリント・定期考査・課題等提出物内容 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 | ワーク・プリント・実習レポート・課題等提出物内容・作品 |

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業は、板書を写すだけでなく、説明をよく聞き、新しい知識をメモしたり、自分の意見を書き足したりして知識・理解を深めること。
- 一斉授業やグループ学習では、発表や発言に進んで参加すること。
- 実習などの活動では、班員と協力して計画的に行うこと。
- 実習などの活動では、教員の指示や被服室、調理室の使用方法に従い安全に作業すること。
- 提出物の期限を守ること。忘れ物をしないこと。
- 実習や授業のねらいを理解し、生活に活用させること。
- 定期考査前は、言葉を暗記するだけでなく、自分の家庭生活を振り返り生活と照らし合わせて思考すること。

【家庭学習の進め方】

- ① 課題は丁寧に取り組むこと。その時の発見・気づきを大切にすること。
- ② 授業で習ったこと、自分で実践できることを家庭で積極的に言い復習すること。
- ③ 授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をすること。また、情報を生活に活用させること。
- ④ 社会や地域・家庭生活について関心をもち、気になったことはメモをとり調べる習慣をつけること。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス④情報手段能力×知識技能

- A 日常食の調理「調理実習」安全、衛生、環境に配慮した調理の流れと手順について調べ、実践する。
- B 持続可能な住生活「環境に配慮した住生活」人や環境に配慮した住まいの工夫について調べる。
- C 持続可能な消費行動「社会・環境に配慮した消費行動」人や環境に配慮した消費行動について、企業や消費者の取り組みを調べる。

【年間指導計画（年間 35 時間）】

| 週 | 単元名 | 主に学習すること | 学習のねらい |
|----|----------------------------|------------------|---------------------------------------|
| 1 | B 衣食住の生活 | 1. 生鮮食品の選択と保存 | ○生鮮食品と加工食品の特徴を理解する。 |
| 2 | 【食の生活】 さまざまな食品と その選択 | 2. 加工食品の選択 | ○生鮮食品と加工食品の表示内容、正しい保存方法を理解する。 |
| 3 | | 3. 食品の安全と情報 | 食品の安全を確保する仕組みの必要性について考える。 |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | 地域の食文化 | 地域の食文化【B】 | 食文化の成り立ちを理解し、自分の住んでいる地域の食文化について理解する。 |
| 7 | | | |
| 8 | 日常食の調理 | 1.調理の計画 | ○1日分の献立作成の方法を理解し、作成する。 |
| 9 | 学習基盤 A | 2.調理実習 | ○いろいろな切り方の技能を身につける。 |
| 10 | | | ○調理レポートの作成を通して、よりよい献立を工夫する。 |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | B 衣食住の生活 |
| 14 | 【住の生活】 | 2. 住まいのはたらき | 住居の基本的な機能について理解する。 |
| 15 | 住まいのはたらき | 3.家族の生活と住空間のかかわり | 日本の住まいの特徴を知り、家族の生活と住空間のかかわりを理解する。 |
| 16 | | | |
| 17 | 安全な住まいで安全な暮らし | 1.家庭内事故への備え | 家庭内の事故の事例から、住環境の工夫を考える。 |
| 18 | | 2.災害への備え | 災害に備えた備蓄や災害後のすまいを理解する。 |
| 19 | | 3.家族の安全を考えた住空間 | ○減災のための住まいの工夫を考える。 |
| 20 | | | ○間取り図の書き方を理解する。 |
| 21 | | | |
| 22 | | | |
| 23 | 持続可能な住生活 | 環境に配慮した住生活 | 自然や人にやさしい住まいの工夫を理解する。 |
| 24 | 学習基盤 B | | |
| 25 | | | |
| 26 | C 消費生活・環境 | 1.いろいろな購入方法 | 消費生活のしくみを理解する。 |
| 27 | 家庭生活と消費 購入・支払いと生活情報 | 2.さまざまな支払い方法 | さまざまな支払い方法の利点と問題点を理解する。 |
| 28 | | 3.契約 | 売買契約について問題発生の原因や予防方法を理解する。 |
| 29 | | 4.情報を活用した上手な購入 | 購入に必要な基本的な知識と技能を習得し、目的にあった商品を選ぶ。 |
| 30 | | 5.計画的な金銭管理 | 計画的な金銭の管理の必要性について考える。 |
| 31 | | 消費者被害と消費者の自立 | 1.消費者被害 |
| 32 | | 2.消費者を支えるもの | 消費者を支えるしくみについて理解する。 |
| 33 | | 3.消費者の権利と責任 | 消費者の権利と責任について理解する。 |
| 34 | 持続可能な消費行動 | 1.社会に配慮した消費行動 | 消費者の行動が社会や環境に与える影響について理解し、自分の生活を工夫する。 |
| 35 | 動学習基盤 C | 2.環境に配慮した消費行動 | |